感染者急増、「第７波」は群馬にも？　「BA・5」の広がりに懸念

2022/7/12 毎日新聞

一時は沈静化していた新型コロナウイルスの感染者数が７月に入って急増し、「第７波」に突入したと指摘されている。群馬県内では、12 日の感染者数が３月以来の 700 人超えとなった。従来株より感染力が強いとされるオミクロン株派生型「BA・5」の広がりが懸念される。【庄司哲也】

県によると、1～7 日の感染者の 68％は 39 歳以下で、若い世代の感染者が増加傾向にある。一方、11 日時点の新型コロナウイルスワクチンの３回目接種率は 40 代の 61・6％に対し、30 代は 54・1％、20 代は 52％、12～19 歳は 32・5％。若い世代に感染者が多い点について県は「ワクチン未接種の影響もあるだろう」とする。

今後、心配されるのは、BA・5 の急速な拡大だ。九州や山陰地方では７月に入って過去最多の感染者が出ている県もあり、BA・5 への置き換わりが指摘されている。

県内では１月にオミクロン株の従来型「BA・1」の市中感染が発表され、同 27 日には初めて 1000 人超の感染者が確認された。県は７月８日、BA・5 の感染者が７人確認されたと発表しており、BA・1 と同様の傾向を示せば、同月下旬にも感染者が大幅に増加する可能性がある。

一方、死者数は４月の 24 人、５月の 11 人に対し、６月は３人、７月（11 日現在）は１人にとどまる。県は「高齢者へのワクチン接種が進んだ影響で、重症化がある程度は防げているのではないか」とみている。

40 歳未満の３回目接種率を 60％以上に

新型コロナウイルス感染者が再び急拡大する理由について、群馬パース大大学院の木村博一教授（感染症学）に聞いた。

新型コロナウイルスの感染再拡大について説明する群馬パース大大学院の木村博一教授＝群馬県高崎市で2022年7月8日午前9時47分、庄司哲也撮影

――全国的に感染者が増えている。

◆オミクロン株派生型「BA･5」の拡大もあるだろうが、どういう人たちに感染が広がっているかを見るべきだろう。40 歳未満の３回目ワクチン接種率の全国平均は 50％（4 日現在）に届いておらず、感染が急拡大する九州や山陰地方の県ではこの世代の接種率が全国平均より低い。

――ワクチン接種を進めれば感染を封じ込められるのか。

◆ワクチンには発症を予防する効果もあるが、それのみを期待するのは過大な要求ではないか。重症化予防効果を重視すべきで、実際に重症化する人や死者は増えていない。

――第７波に向けてどう対応すればいいか。

◆40 歳未満の３回目接種率を最低でも 60％以上に速やかに引き上げることが必要だ。2 回のワクチン接種から一定期間が経過すると、オミクロン株に対する発症予防効果は薄れる。さらに高齢者や重症化リスクの高い人の４回目接種を確実に進めるべきだ。

――全国で感染抑制から経済を回す方向にかじが切られている。

◆経済を回す方向でも構わない。ワクチン接種が進んだことで、新型コロナウイルスは、ワクチン登場前とは「違うウイルスになった」という認識が必要だ。繰り返しになるが、重症化を防ぐことを基本として感染者を制御していけばいい。